

# 議 事 録 【令和3年度 第1回総合教育会議】

日	令和4年3月17日(木)	時間	10:00~11:30	場所	糸魚川市役所 庁議室
件名	(1) キャリアフェスティバルいといがわとキャリア教育の推進について				
出席者	<b>【出席者】 15人</b> 市長 米田 徹 教育委員会 靄本修一（教育長） 谷口一之（教育長職務代理者） 塚田京子（教育委員） 齊藤里沙（教育委員） 山本修（教育委員） （事務局） 総務部 渡辺 忍（総務課長） 仲谷充史（総務課長補佐） 教育委員会 磯野 茂（教育次長） 磯野 豊（こども課長） 室橋淳次（こども課長補佐） 関澤 仁（こども課管理係長） 土沢修栄（こども課管理係主査） 富永浩文（こども教育課長） 小野 聡（こども教育課参事） 水澤 哲（こども教育課こども教育係長） 伊藤章一郎（文化振興課長）				
	傍聴者定員	10人	傍聴者数	2人	

## 会議要旨

1	<p>開会（10:00）</p> <p>○事務局</p> <p>ただいまから、令和3年度糸魚川市総合教育会議を開会します。</p> <p>議事に入るまでの間、進行をさせていただきます総務課長の渡辺です。</p> <p>当会議につきましては、当初、2月14日に予定していましたが、市役所の爆破予告があり、本日に変更となりました。皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。</p> <p>それでは、次第により進めます。</p> <p>はじめに、米田市長がご挨拶申し上げます。</p>
2	<p>市長挨拶</p> <p>○市長</p> <p>本日は大変ご多用のところ、令和3年度糸魚川市総合教育会議に出席いただき、御礼申し上げます。</p> <p>教育委員の皆様には、日頃から市政、教育行政に対しご尽力をいただき、改めて御礼申し上げます。</p> <p>現在、第6波として新型コロナウイルス感染症が発生しておりますが、新潟県においてはまん延防止等重点措置が3月6日で終了しておりますが、市内では感染者が発生している状況が続いております。</p> <p>また、とりわけ教育現場、糸魚川中学校においてクラスターが発生しており、本当に教育関係者の皆様には、ご苦勞をお掛けしている状況であります。</p> <p>私としても、感染防止対策に力を入れて取り組んでおり、皆様におかれても、またご協力をいただきたいと思います。</p>

本日の会議については、キャリア教育を議題としております。

子ども一貫教育基本計画の中でも「重要な教育活動」の1つとして掲げているキャリア教育ですが、最近特に力を入れて取り組んでいるキャリアフェスティバルいといがわについては、ご承知のとおり、令和2年度から取り組んでおり、非常に高い評価をいただいているところであります。子どもたちそれぞれに自分らしい生き方を実現するために、0歳から18歳までの学びのステップをしっかりとつくり上げ、当市の一貫教育を更に充実していく上で大きなインパクトのあるものと考えております。特にこれについては、関係者に感謝申し上げる次第です。

本日は限られた時間ではございますが、教育委員の皆様方から多面的なご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げます。

簡単でございますが、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

よろしくようお願い申し上げます。

### 3 報告

#### ○事務局

それでは次第の3報告に移ります。キャリア教育に関する文部科学大臣表彰の受賞について、事務局から報告いたします。

#### ○事務局

それでは報告いたします。

文部科学省では、キャリア教育の充実を促進させることを目的に、その充実発展に尽力し、顕著な功績が認められた教育委員会、学校及びPTAの功績をたたえております。

この度、第14回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰として、糸魚川市教育委員会が受賞いたしました。

去る1月25日にライブ配信にて開催された「令和3年度キャリア教育推進連携シンポジウム」内で受賞団体の紹介がなされ、教育委員会の部として12団体が受賞し、その1つに選ばれたものであります。

これは、令和2年度から開催している「キャリアフェスティバルいといがわ」の取組に関して、開催前後のアンケート調査での生徒の意識が大きくプラスに変化したことや、参加企業からの好意的な感想なども含め、産学官が連携した好事例であったことから受賞に至ったものであります。

報告は、以上です。

(教育委員から拍手あり)

### 4 議事

#### ○事務局

報告が終わりましたので、次第の4議事に入ります。

糸魚川市総合教育会議設置要綱第5条の規定により、議長は米田市長となります。以降の進行については、米田市長にお願いします。

#### ○市長

それでは、定めにより議長となりますので、よろしくお願いいいたします。

次第に従い、1点目の「キャリアフェスティバルいといがわとキャリア教育推進」につい

て議題といたします。事務局の説明を求めます。

#### ○事務局

それでは、ただいまから糸魚川市のキャリア教育について資料に基づき説明させていただきます。

お手元の資料をご覧ください。今ほど表彰の報告にもありましたキャリアフェスティバルといがわは、それ単独で表彰という成果になったわけではないと考えています。

したがいまして、ここにご参会の皆様で、糸魚川市のキャリア教育を全体として俯瞰する、そのような役割を果たしたいと思って資料を用意しました。

資料をお開きください。

糸魚川市のキャリア教育は、モニターにも映しましたけれども、子ども一貫教育方針のもと、日本一の子どもを育てる仕組み、そして、自立した18歳に育っていくそのステップを、幼少期からずっと緻密に組み立ててきている。その中にちゃんと位置付けているということでもあります。

下の方に少し書かせてもらっていますが、糸魚川の中で生まれれば、必ずこのステップを全員が昇り、スピードやそのときの気持ちは変わりますが、大切な我が糸魚川の子供としても連携して育てていきたいという想いのもとに作られているものであります。

資料の方で、右側に糸魚川市のキャリア教育ということで、ページを用意させてもらっています。それを具現化したものが、位置付けと方向性であります。豊かな心、健やかな体、確かな学力、その三つの柱だけではなくて、重要な教育活動として、キャリア教育を位置付けているということでもあります。

モニターをご覧ください。大きな流れに向けてのステップについて、園や学校からいただいている写真をもとに少し説明を加えていきたいと思えます。

内容については、資料にあるものでありますので、適宜ご覧いただければと思えます。

まずやはり、キャリア教育というとい職業についてどうだとか、自分の将来の夢というところに行きがちですが、糸魚川市では、足元の郷土愛、こちらも大事にしたいと考えています。幼少期のこういう取組が、キャリア教育の土台をつくっていると考えています。様々な園では、園の中だけではなくて、畑や地域の自然の中に子供たちを積極的に連れ出して、子供同士、それから自然との関わりを大事にしています。

(写真は)数年前に撮影したものでありますので、マスクをしていない写真になっています。そしてその郷土愛、それから仲間との大事な関わりが小学校、中学校と年齢が上がっていくにつれて、関わる人を通して地域と繋がっていくという取組が、学校では行われていきます。

この映像の左が日産のデザイナーです。私の同級生で能生出身ですけれども、糸魚川小学校でキャリア教育、なぜこの道に進んだのかというのを、目の前で車のデザインをデッサンしてみながらやっています。

まさにこの人に憧れた子供が、その道に進むかもしれない。またはその方を通じて、社会に役立っていく仕事を、こういう時期に食い入るように見ている姿が、子供たちのキャリア教育の大事な一つのコマになっていると思っています。

当然赤ちゃんとのお触れ合いも大切にしています。

(映像は)自分たちが行ってきたことを、地域の団体などに寄付をしているところです。小学校、中学校では、子供の学びを外に発信する機会を様々模索しているその一つであると

思います。当然、講師を招いてこのような形でお話を聞くこともあります。

もちろん中学校では職場体験というのが、キャリア教育の大事な位置付けでありますので、糸魚川総合病院で、まさに医療の皆さんと、関わりながら過ごした時期です。

当然お店、飲食店、糸魚川市の大事な産業の一つも、子供たちはこのように体験をしています。こういう形も育って欲しいなと思っています。

高校では、その上に成り立って自分の夢を語る機会を、様々作っていただいています。近年では、高校の魅力化とも合わせて、本当に地域とマッチした取組を、徐々に高めているところでもあります。もちろん高校でありますので、その先に社会に飛び出て行くという具体的なところがありますから、事業所とリクルートのようなイメージでやっているところもあります。

今度はこれが高校の種類が変わってくると本当にこういう技術を身につける、こういう体験をするということも、市内の3高校では、きちっと取り組んでいると思っております。それが全て糸魚川市のキャリア教育として、0歳から18歳まできちっと位置付けられているというのを確認していただけたらと思います。

ところがトピック的な行事・事業だけではなくて、やはり教育活動全体を通じて行うのがキャリア教育であります。

(この映像は)糸魚川小学校でひすいの里の子供さんたちと関わっている様子です。実はここにもキャリア教育の要素がちゃんと入っています。一緒に生きている子供とちゃんと関わる、又は、その子供の後ろにいる先生の様子を見て、こういうこともしっかりとしたキャリア教育になっています。

(映像は)ALTです。東中学校に6名が揃って、自分の出身州を紹介しているという1コマをやらせていただきました。このALTと関わりを通じて、実は国際的な感覚を養うとともに、糸魚川のことをしっかりと見つめていると思っています。

また、社会科の教科の中では、自動車工場で働くという内容のコマもあるのですが、ICT機器を通じて、インターネットで調べたり、またはこれをもとにして本当に見学に出かけていったりってことも、先生方は工夫していただいています。

そしてジオパーク学習、大事な教育の一つなのですが、こちらも地域のことを学ぶという大事なステップとして、これもキャリア教育としての大きな役割を果たしています。

(映像を見ながら)誰とは申しませんが、このような大事な人材も糸魚川にはたくさんおりまして、郷土のことをしっかりと伝えていく。そのことが子供たちに地域の誇りを育てて大事な1コマと考えています。

この映像は、科学研究発表会です。実は、上越地域3市の中で、iPadを使用した発表というのは糸魚川市だけだったんです。積極的に取り入れて、これは低学年のお子さんですけれども、ちゃんとそういうものを駆使しながら、発表しているという様子です。おそらくこの子は、この経験を生かしてもっと科学に興味を持っていくし、将来に繋がっていくのではないかと思います。

以上が、教育活動全体を通じてのキャリア教育ということもお伝えさせていただきました。

こういった学びを積み重ねてきた我が糸魚川の子どもに送る大切な学びのステップとして、この後説明をさせていただきますが、キャリア教育フェスティバルといいがわがあるとあります。説明の担当が変わります。

以上です。

#### ○事務局

それでは、キャリアフェスティバルいといがわの説明をさせていただきます。

この取組で何か一つ、生徒の心に残したいものがあるとすれば、ずばり感動体験です。親でも学校の先生でもない大人の生き様に触れる場所を創る。子どもたちの眼差しに大人が本気で応える。熱意と熱意がぶつかり合う場所に大きな感動が生まれたことを、昨年実感しました。

キャリアとは、人間が生涯を通して、様々な役割を果たしていく過程で、自分が担っている役割の価値を探し出していくことです。そういう意味で、地域で生きる大人全員が先生だと考えます。早い子では3年後、大学まで行った場合なら7年後、働くことを通して社会に関わるようになりますが、その関わり方は、人それぞれ異なります。その違いが自分らしい生き方になっていくということを、キャリアフェスティバルで知ってほしいと思います。

これから、当日の様子をまとめた動画をご覧ください。10分ほどの作りになりますが、時間の都合上、部分的な紹介とさせていただきます。

では、ご覧ください。

#### (動画視聴)

(動画説明) 取組に賛同し、参加したのは13の業種の全50事業所。この日のため様々な準備をしていただきました。4中学校と特別支援学校(中等部)の3年生、教職員関係者、出展事業者をあわせ、総勢600人以上が市民総合体育館に集まりました。

ブースの大きさはタテヨコ3m。ブース巡り1回の時間を20分とし、事前に決めたブースを午前5回、午後5回と、計10事業所を回りました。今回、感染症対策として、業種ごとにブースを固めてひとつのユニットとし、ユニット内には1つの中学校しか入れない動線をつくることで、学校間の接触を減らすようにしました。

映っているのは介護、福祉事業所です。5つの事業所から出展いただきましたが、会社の垣根を超え、合同でブースを設けていただき、寸劇や介護用具の装着体験、VR体験など、生徒が楽しみながら介護の仕事を学べる工夫をしていただきました。

こちらは昨年、生徒からの要望が多かったパティシエ職種を一本釣りし、出展して頂きました。

市内3高校から、これから入学してくる後輩たちに向けて、学校生活の様子や授業の取組を紹介してもらいました。定員割れが続く糸魚川高校には、ここでのアピールで翌年の入学人数が違ふとたぶらかし、琴の演奏に乗せた書道パフォーマンスを披露してもらいました。

海洋高校のこちらの生徒は、イベントであんこうの吊るし切りを行う4代目「あんこうガール」の子で、将来地元で店を持ちたいという夢を紹介してくれました。

会社や仕事の内容を知ってもらうことも目的の一つですが、大事にしたのは、一人一人の大人の、糸魚川での暮らしや地域に対する想い、生き方を感じてもらうことです。夢の実現のため、一度はここを出ていっても、いずれ戻り、いつの日か地域を支える主役になってもらいたい、そんな想いも込めています。

実行委員長であった青海中学校石川校長は、キャリアフェスティバルで大事にしたいのは、「将来の夢が決まっている子ではなく、なりたい職業や夢を持っていない子だ」と仰っていました。夢や目標を持たない子にとって、自分の将来を意識するスタートになってくれればと思います。

土木建設業のユニットです。女子生徒の訪問が多かったのが印象的でした。

こちらは、新企画のヒューマンコーナーです。UIターンの女性から、自身のキャリアや糸魚川で就業した理由、糸魚川の魅力を語ってもらいました。

今年の3年生は、昨年、コロナ過で職場体験ができなかった世代で、どうしてもキャリアフェスティバルを経験させてあげたいというのが学校側と実行委員会の一致する思いでした。制約の多い中での開催でしたが、充実した生徒たちの表情から、開催することができてよかったと思いました。

引き続き、画面をお願いいたします。昨年の実施状況を簡単に報告させていただきます。資料は、3ページとリンクしています。

出展事業所の属性になります。製造業と医療福祉事業所が一番多い、8事業所 16%、以下、土木建設業、サービス業の7事業所 14%と続きます。

所在地域ですが、糸魚川地域が全体の76%、能生地域12%、青海地域6%と続きます。上越からの3つは自衛隊高田地域事務所、株式会社リボン、えちごトキめき鉄道になります。

出展事業所の声をご紹介します。

出展した感想として、「良かった」が91%、「まあまあ良かった」が9%、代表的な意見として、産学官連携の取組として、参加者全員が楽しみながら交流を図れる素晴らしい企画だと思う。将来の糸魚川市を担う人をひとりでも多く増やすために必要な活動のひとつではないでしょうか。市・生徒・教員・企業の全てのセクションにメリットがある素晴らしいイベントだと思いますといったものがありました。

一方で、企業側も「昨年と同じことをやれば良い」と思っただけなのだと感じたといった声があり、出展する側も工夫の必要性があると認識されていることが伺えました。

続いて、運営面についての感想です。「良かった」が79%、「まあまあ良かった」が21%、代表的な意見として、事前の準備から当日の運営まで、とてもスムーズに行われたと思う。細かな気配りが感じられる運営で素晴らしかった。昨年のプログラムを改善し、不必要なものがなくなったと感じた。会場の配置や時間配分、生徒を中心とした動きなど、事業所を含め大人が出すぎずに良かったと思うといったものがありました。

次回への参加意向です。「参加したい」が89%、「わからない・考えていない」が11%でした。このイベントは産業界の協力がないと成り立たないことから、9割近い皆様から次年度もご協力いただけるという回答を有難く思います。

開催にあたり、4校それぞれでの事前学習時とキャリアフェスティバル実施後で同一設問によるアンケートを行いました。

問1「糸魚川市にはどんな事業所があるのかわかりますか」では、実施後では、一番下の「21社以上わかる」が約2倍に増え、当然ながら認知度は大きく向上しました。

続いて、問2「将来、糸魚川市で働いてみたいと思いますか」では、実施後では、「働いてみたいと思う」が2割増、「働いてみたいと少し思う」が4割増という結果となりました。実際に生徒からは、「将来、糸魚川で働きたいと思った。」、「地元で働くという良さを再確認することができた。」という声がありました。

続いて、問3「将来、就きたい職業はありますか」では、一番下「特に決めていない」が減少し、そのほかの3項目は増える結果になりました。キャリアフェスティバルで様々な職業を目の当たりにし、仕事のイメージが少し具体的に捉えられるようになったためではな

いかと考えます。

生徒の参加後の感想を紹介いたします。

代表的な意見として、仕事説明会ではなく、キャリアフェスティバルという形だからこそ楽しく学ぶことができました。自分が働いてみたいカテゴリーが増えた。糸魚川にはたくさんの企業があって、私たちは支えられているんだと改めて感じた。糸魚川に恩返しをしたい人で溢れていました。僕も大人になって糸魚川に恩返しできるように頑張りたい。糸魚川のあたたかさに改めて気付かされたし、この糸魚川で学べて幸せだと感じましたといったものがありました。

また、生徒から会社・事業所の方々へのメッセージとして、ネットだけでは分からない現場の声というものを聞いて良かったです。将来この人たちと働いてみたいなと感じて、将来が楽しみになりました。普段自分の住んでいる糸魚川で働いている人が、こんなにかっこいいとは知らなかった。こんなに夢を持つ方々が糸魚川で働いていて、この街にいられて幸せだと心から思いました。私たちにとって未来について考えることができる素晴らしい会になりましたといった声がありました。

当日は引率の先生のほか、各中学校の多くの先生方からイベントの様子を見て頂き、糸魚川市のキャリア教育に対する本気が伝わる素晴らしい会との高い評価もいただいています。一方で、改善点の指摘もありますので、教育者の立場からの貴重なご意見として、次年度以降の運営に反映していくつもりです。

学校、事業所からは、更なる期待や進化を求める声も多く、既に幾つか出展希望も寄せられています。運営ではまだ荒い部分も少なくないですが、キャリアフェスティバルは産業界、学校、行政の3者が一緒に汗をかき、言葉だけではない、産学官連携というものが具体的な形となった試みだと捉えています。

ちなみにこちらは、出展事業所の SNS 投稿です。このように多くの事業所でも取組の意義に賛同いただき、情報発信してくれています。

キャリアフェスティバルは、市の最重点課題の一つである「人口減少対策」に対する、教育委員会としてのアプローチのひとつの実践であり、この世代が、数年後、どのような将来を選択するか、どのように成果として現れてくるか注視しつつも、期待をしています。

今後も、学校や事業所のニーズ、それと社会的意義を汲み取りながら、将来花をつける事業となるよう試行錯誤を重ねて参りたいと思います。

以上でキャリアフェスティバルの説明を終わります。

#### ○市長

説明が終わりました。

初めに、ただいまの説明に対するご質問のみをお受けし、ご質問が終了したのち、改めてご意見をお伺いしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、まず、説明に対するご質問はございませんか。

#### ○委員

糸魚川市のキャリア教育で、資料を見ますと一番上に重要な教育活動というところで、キャリア教育がゴシック体となっていますが、自分への自信（自己肯定感）と、糸魚川への愛着を高める子供の育成と書いてありますが、今のところの成果として何かこう、わかるものがあれば教えていただきたいと思っておりますがいかがでしょうか。

#### ○事務局

全国規模で行われている全国学力学習状況調査の中に、質問紙調査というのがあります。関連する項目がありますので、紹介をさせていただきます。

まず、自分への自信、それから自己肯定感の表れの一つとして、やはり自分がしっかりと夢を持っているかという項目があります。小学校6年生と中学校3年生の両方がありますので、お伝えをします。

将来の夢や目標を持っているという肯定的な評価をしたお子さんが、全国評価で小学校では80.3%、それに対して糸魚川市の小学校6年生は83.6%で、3ポイント以上、上になっています。中学校では、全国が68.6%と7割を切っておりますが、糸魚川市の中学校3年生は73.4%と明らかな優位差があると考えております。

また、自己肯定感に関わって、自分には良いところがあると思いますかという質問がありまして、小学生が全国で76.9%に対し、糸魚川市の小学校6年生は83.3%、中学生に至っても、全国で76.2%であるのに対して、中学生87.3%となっております。

特に自分に良いところがあると思いますかという質問では、比較的小学校で良い数値となっても中学校になると少し下がってくる傾向にあるんですけども、自己肯定感に関しては、小学校の子よりも中学校の子でぐっと上がっている。これは糸魚川市の特徴の1つであると思っております。

また、今の事柄に関連して、今住んでいる地域の行事に参加していますかという質問があります。同様に、地域や社会を良くするために何をすべきか考えることがありますかという項目もあります。そちらについてもお伝えをします。

住んでいる地域行事に参加をしている子供の割合です。

全国で小学生が58.1%ですけれども、糸魚川市では、小学校6年生86.3%が参加をしています。これが中学校になると、全国では43.7%が落ちるのですが、糸魚川市では、忙しい部活もたくさんあると思いますが、7割を超えて70.6%が参加をしています。

また、地域や社会をより良くするために何をすべきかと考えることがありますかという問い、おそらくこういった教育活動の中で、そういうことまで言及した学びを指していると思いますが、小学校で全国52.4%のところを、糸魚川市では70.0%。中学校で全国43.8%のところを、糸魚川市では62.5%の子供たちが、糸魚川を何とかしたいと考えることがあると答えています。

#### ○委員

1回目、2回目とすごく素晴らしい内容になってきていて、さっき報告がありましたが、事務局の方も一生懸命働きかけをしていると思うのですが、出展の希望をする事業所は、どんどん増えているのか、或いはコロナ禍でなかなか厳しいところもあると思うのですが、その辺の企業側の考えとか、会社の考えを聞かせていただければと思っています。

#### ○教育長

関連して、ブースで出展した事業所の関係ですけれども、所在地域では糸魚川が圧倒的に多くて、青海が少ないのですが、地域バランスを見ると、もう少しそのあたりは、改善する余地があるのではないかなと思うのですが、地元の企業、事業所の感触みたいなものがわかれば、聞かせてもらえればありがたいのですが、お願いします。

#### ○事務局

企業出展の件ですが、多くの業種が出ていただいているのですが、市内にはまだまだ多くの業種、このキャリアフェスティバルというのは、先ほど説明があったとおり、地域で活躍

している大人の生きざまに触れて、中学生にも思いを持ってもらいたいというところで始めたものであります。

業種にこだわらずに、より多くの大人と対話、関わりを持って欲しいと思っていますので、今後例えば、仕事ではなくて、地域で活躍している方も含めて、より多くの分野の方々にお声掛けをしていきたいと思っています。

事業所の所在地域のバランスは、教育委員会でも周知はしているところですが、声が届きにくい面もあると思うので、今後少し周知方法を変えて、例えば、教育委員会でも、生涯学習課や文化振興課もありますので、そういったところと連携してお声掛けをしていきたいと思っています。

#### ○市長

他にご質問はございませんか。

ご質問が無いようでありますので、ここからは、皆さまのご意見をお伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。

#### ○委員

キャリアフェスティバルは、1回目と比べても2回目がステップアップしていて、とてもよかったと思っています。

そしてヒューマンコーナーが凄く良くて、Uターンしてきた人、縁あって糸魚川に住んでいて、仕事をしている人たちの話を聞いたこと、また、1回目が会社説明会のような感じで終わっていた企業も、事務局の丁寧な説明があったからか、会社説明をした後に共通のテーマで、仕事のやりがいとか夢を全ての企業が話していたということで、働く人の思いをよりよく聞くことができたと思います。

私は、キャリア教育の軸は、さっき事務局もおっしゃっていたように、子供たちがどんな仕事をするかとかどんな職業に就きたいかではなくて、どうやって生きていきたいか、自分らしく生きていくためには、どうしたらいいのかというのを学ぶ教育だと思っています。キャリアフェスティバルはそのヒントを得られる良い場であればいいと思っています。

キャリアフェスティバルで印象的だったのが、大人の輝く目ですね、あんまり私もそこまで輝く目を見たことがなかったのですけれども、自分のやっていることに誇りを持ってやっている人が話をしているときの目は、本当にキラキラしていました。そういう人というのは仕事以外でも、糸魚川でやりたいことをやっている大人、一生懸命何かに取り組んでいる大人はすごくたくさんいると思います。

例えば、自分のできることを生かして、子供たちに教える活動をしているとか、自然が豊かな糸魚川に住んでいて、海で思う存分釣りをしたいとか、山を毎週登りたいとかということで、糸魚川で仕事をしている人、ボランティア活動を頑張っている人、そういった人の話を聞くというのもキャリア教育の1つになると思うので、そういった機会を子供たちにもっと与えてあげられたらいいなと思っています。

また、そういった話を聞くというのは、やりたい事ややりたい仕事に、もし就けなかった子供たち、何か挫折した子供たちにも、糸魚川での生きがいが見つかるのではないかと、そういう1つのヒントになると思いますし、楽しく人生を生きる人の話を聞くと、胸にすごく響きますし、ずっとそれは残っていると思います。

それなので、何か困難に直面したときも、そういう人たちの話を聞いて、そういえばそうやって言っていたなというのは、大人になっても残っていることだと思うので、そういった

職業だけでなく、本当に多くの人の話を、子供のうちから聞ける機会をキャリア教育として、そういった場所を作っていただければいいなと思います。

○委員

キャリア教育も先ほどの映像も初めてではないのですが、見る度にウルウルしてしまって、子供たちが本当にキラキラしていて、「ひとみかがやく日本一のこども」というのが本当に伝わります。

キャリア教育ってなんだろうって、少し勉強したり考えてみたりしたのですが、生きる力を育てることなのかなって私の中では思っていて、生きる力、生きていく力、もっと言えば、幸せに生きていく力を育むことなのかなって思っています。

今、先ほどの映像を見ても、やはり幸せに生きていくというのは、やりたいことをやる、仕事もそうですけど、プライベートでもやりたいことをやる。それも幸せに生きるに繋がっていくのかなって思います。それを育むということで、このキャリアフェスティバルのように、こういう仕事があるよ、こういう生き方があるよっていうのを見せるっていうのは、本当に素晴らしいことだと思います。

そこで大切にしたいと思うのは、あくまで大人がこういう仕事があるよ、やってみなさいって押し付けないことかなって感じます。

例えば、糸魚川がこの後も発展する、続いて欲しいという気持ちは、郷土愛があるからこそ思うことなのですが、糸魚川で就職した、偉かたではなくて、糸魚川で就職したは、あくまで結果であって、例えばその就職率が上がったとしても、それをやったって思わないけれど、それを押し付けない。どんな選択をしたとしても、そこまでやってきた個人個人の一人一人が幸せになる道を選択すれば、糸魚川で就職しようと、どっかで就職しようといいのかなと思います。そこを押し付けないようにやっていきたいと思うのと、それをするためには、ひとみかがやく日本一のこどもを育てたいなら、大人もひとみかがやく日本一の大人である。それを見せるのが、最高のキャリア教育になるのかなと思いました。

それを見せる点で、やはりキャリアフェスティバルというのは、まさにひとみかがやく大人がたくさんいました。なので、いろいろな企業だけではなく、糸魚川の暮らしを楽しんでいる人たちが参加できて、ひとみかがやいている姿を見せるというところが大切なのかなと感じます。

もう1つ。私はまだ子供が小さくて、あまりキャリア教育を考えてもわからないところもありましたが、小学生、中学生になればもう少し具体的にわかるのですが、ただ、これは糸魚川ならではのなと思うのは、幼児期から出来るキャリア教育があるというところだと思います。この関わる良さを味わう。

ジオパーク学習とか先ほどの映像にもありましたが、畑を耕すことを子供たちがやっています。そして、やっているから地域に興味が出ています。そして、時期になると「ふきのとう出るね」って子供から声が上がります。

それが出来るのは、やはりこの地だからこそだと思います。これは糸魚川で育ってよかった、糸魚川で子育てしてよかったというところに繋がってくるので、この0歳から6歳までも出来るキャリア教育というのは、糸魚川ならではのものです、これも大切にしておきたいと思います。

○委員

まず今年のキャリアフェスティバルの感想を言わせていただくと、一言でいうと熱を感

じました。

冒頭の教育長の話からも熱を感じましたが、詩も読まれたりして、それだけではなくて、ブースで説明してくださっている企業の方々からも非常に熱を感じましたし、今、委員もおっしゃったように、子供たちに一生懸命熱く語っている大人がいるってことは、すごく子供に伝わったなと思いました。1日を通して熱い会だったなというのが感想です。

きっとそれは準備された方々にも熱があって、その熱が伝わったのだと思います。こういう感染はいいことだと思いました。

子供たちの感想を見ても、8ページの生徒から会社・事業所の方々へのメッセージで、上から3つ目に「普段自分の住んでいる糸魚川で働いている人が、こんなにかっこいいとは知らなかった」という大人への憧れが出てきたことは、それは素晴らしいことだと思いました。

やはり人だと思うので、自分たちの地域にはこんなにかっこいい人がいると子供たちが思えるということは、将来を考える上でもとてもいいことだなと思っています。

今後のキャリアフェスティバルへの要望としては、保護者を巻き込めないかなと思いました。話を聞いたりすると、糸魚川なんてって言う親がいるという話も聞きます。糸魚川なんて何もないと言う人もいるということですが、でもそうではなくて、親御さんもぜひ参加していただいて、こんなに熱い人たちがいる地域だということを親御さん自身も感じていただいて、それで家で親と子で話ができるというような、家庭まで持っていけるような会になるといいのではないかなと思いました。

もう1点は、糸魚川で起業しているような人がそこにいるといいのではないかなと思いました。5、6年前に島根県の海士町に行かせていただいたことがあって、その時に町長さんが、「ウサギ追いし」という故郷の歌がありますけれど、その2番の歌詞で「志を果たしていつの日にか帰らん」となっているけれども、それは私は嫌だとおっしゃって、志を果たしてから帰ってくるのが故郷ではなくて、志を果たしに故郷に帰ってくるとおっしゃったのがとても印象的で、子供たちにも是非、志を果たしに糸魚川に戻ってきてもらいたいと思いました。

#### ○委員

今3人の委員さんからもいろいろな意見が出ましたが、私も本当に素晴らしい会になっていると思いますし、1日のキャリアフェスティバルなので、やれることは当然限界があるが、例えば、コロナでなければ昼に郷土食を皆で一緒に食べるとか、パフォーマンスなどをしてもらおうということも幾らでもできると思うので、それは今後いろいろと考えて工夫していけば、できることはたくさんあると思うので、頑張っていければいいなと思いますし、教員の立場から考えると参加してない小学校の教員や校長も何人かおりました。

去年もそうですが、教員にとってもすばらしい取組であると思いますし、実際に中学生を引率したり参加したりした先生方はすごくよくわかっているのかなと思います。参加していない先生は、話は聞けると思いますが、ぜひ教員としても糸魚川で頑張っている大人の姿や地域の産業、農業で輝いている人がいるので、それを教員の立場でも学習をしたり、地元以外の教員もたくさんいるので、それぞれの学校で工夫したりしながら、ジオパーク学習との絡みも当然出てきますが、地域を学習したり、地域のいろんな方の話を聞いたりとか、いろんな学校でやっていますが、それがうまく繋がっていければいいかなと思っていて、本当に一貫教育、ジオパーク学習、キャリア教育は繋がっていると思っています。

各学校それぞれが頑張っていますが、今後より充実していければ、0歳からの積み重ねで

小・中・高と繋がっていくと思うので、地域の学習や地域探検などはやってはいるのですが、それが小学校ではこれはやったけれども中学校ではどうしているのかなとか、高校ではやっているのかって、これは教員間でもまだ分かれる部分があって、そういったところがもし全体で統一できて、小学校段階では当然学区で違いますが、中学校に行ったらこの中学校ではこんなことしているとか、高校ではこんな活動しているっていうことが、ある程度教員の立場で見えると、全体としてその校区をより充実していけるのではないかなと感じます。

#### ○教育長

糸魚川の教育の重要な柱に、このキャリア教育が位置付けられていて、0歳から18歳までの系統的な脈絡の中で子供たちが育っているということを、こういった機会を通して皆さんと一緒に確認したいというのも大きな一つだと思います。その一環でキャリアフェスティバルという大きなイベントが開催されて、今年の秋で3回目ということで、少しずつ今ほど皆さんから意見いただいたようにレベルアップしています。

今後どうするのかということも見据えながら、工夫改善を図っていきたいと思っています。これは中学校の校長先生方と、実行委員の皆さん方との共通理解、そして意見交換を経て、第3回目の姿になり、第4回目の姿になってくるのだらうと思いますが、そう考えたときに、やはり会場をどうするのか、日程をどうするのか、或いは市内の中学校3年生が一堂に会するのだけれども、特別支援学校の生徒がいます。そういった生徒たちも交えたときに、出展するブースをどのように働きかけて協力を願うのかという部分も、やはりクリアしていかなければならないと思います。

また、イベントが終わると成果と課題を一旦確認しますよね。それで確認した内容をやはりもっと積極的に発信して行ってですね、やはり市内全体のものに広げていくというスタンスはいつも持っていないと、その関係者だけのイベントで終わってしまうので、その辺の発信をどのように工夫改善していくのか。

その中に今委員さんがおっしゃったように小学校の教員、高等学校の教員、それを取り巻く関係者をどのようにこの渦の中に巻き込んでいくのか。それこそキャリア教育関係の情報共有を盛んにしていくことによって、その動きが各事業所とか市民にもいろいろな形で繋がってくるという、糸魚川キャリア教育の波がもうちょっと高まってくるだらうと思います。伝播力が強くなってくるのだらうと思います。

その辺の部分がやはりどのあたりのところを目標にして、そのために3回目、4回目、5回目というプランニングを少しずつ作り上げていかなければならないと思います。中学校の側からすると丸一日はちょっと取りすぎと言われるかもしれない。そうであれば半日にした場合にどのようにできるのか。

そのことと同時に、もう一つ私が考えたいのは、一貫教育ですから高等学校でこのキャリアフェスティバルのようなものを仕掛けられないかということです。同じようなことはできないかもしれないが、それに近いようなものを高等学校で出来たら、さらに糸魚川のキャリア教育の面白さみたいなものが広がっていくのではないかと思っています、そのようなことも考えたいのです。

是非ここからの後半については、今後の展望みたいなことを皆さんから出していただくといいのではないかと思います。

#### ○市長

ありがとうございました。

我々が今求めているものが、本当に見えてきたと思っておりますが、キャリアフェスティバルといがわは、委員が最初に言われたように、市内の企業なり職業なりを見るだけのイベントではなく、非常に教育的なところが強かった。それは、私も1回目、2回目を通して感じたのですが、委員の皆さんも異口同音で言っておられるように、かなりその熱を感じておりますし、子供たちも感じております。

ですから、今、デジタル社会の中において、どちらかというとバーチャルの世界、熱を感じない時代になっておりますが、無機質な人間ができるのではないかと危惧している中において、本当に大切な人と人とのところが熱で伝わってくる。

企業ではなくて、そこで働いている人たちが、やはりそれだけの熱を持った人たちが集まって、今回いろいろなブースの中におられて、それを子供たちが本当に敏感に感じ取ってもらえているということが、非常に嬉しいです。

企業じゃなくて、熱のある人たちが仕事を通じて、それを伝えてもらえる。こんなに良い教育の場は、私は無いのではないかと感じております。

そういう中で、教育長が言われたように、やはりもっともっと熱のある大人がいっぱいいるので、企業の大小は関係なく、職業というものを通しながら、そういったことを伝えていくというのは非常に大切なことであると思います。しかし、放っておいたら私は段々と下がっていくと思います。ですから、1回目より2回目、2回目より3回目というように、常にステップアップしていくことが大切であって、課題を見つけては、その課題をクリアしていくのが、行政なり、教育委員会なりの仕事ではないだろうかと思っております。

是非とも、そういったところにお力をお貸しいただければありがたいなと思っております。

今、皆さんのご意見を聞いた中で、更にご意見あれば、ご発言いただきたいと思えます。

#### ○委員

キャリアフェスティバルもそうですし、職場体験もそうですけど、本当にいろいろ職場、企業が関わって、熱のある大人の話聞いて興味を持った後に、何かそこで途切れるとかその後が無いというのは、ちょっともったいないなと思っていて、職場体験もそうですけど、もし興味を持ったら、そのあとに引き続き企業と何かできるようなことがあったり、子供たちのやりたいことをその企業、あと地域と一緒にサポートしたりして、実現させていけるまでの何かが出来ると、子供たちに良い体験ができるのではないかなと思います。

また、企業側としても、子供たちの意見なども、すぐくためになると思います。今後の糸魚川で、仕事や会社を経営していくには、どのようなことが必要なのかというのは、自分たちだけでは出てこない意見とかもやっぱりあると思うので、そういうお互いの意見を聞ける場があるとより良いのかなと感じました。

#### ○市長

イベントだけで終わるのではなく、結局これだけ盛り上がった熱をそのまま消さないでもっと活かして繋いでいきたいということですね。

#### ○委員

せっかくちょっと興味を持ったことに、より深く入れる機会があればいいと思います。

#### ○教育長

今の委員のおっしゃったようなことが、私は高等学校に1つのきっかけがあるのではないかな。中学校での出会い、憧れ、その人の熱というように繋がっていく一つのステップがで

きるのではないかと思います。その人の熱を感じてアルバイトをすとか、更にまた学ぶことがいっぱいあるわけです。その人の熱をいっぱいもらうわけですから。そのことで人間性ももっと良くなる気がしてなりません。

○市長

そういうことを考えたときに、高校生もその熱を受けて、中学生とどう繋がっていくのかということもあるのかもしれないね。

○教育長

ブースも企業ばかりではなくて、趣味で活躍している人とかも結構いるじゃないですか、社会貢献ですごく頑張っている人とか。そういう人との出会いがこの中に組み込めれば、それこそ高等学校に行かなくても、その人に直接個人的に或いはグループ的に関わることができるじゃないですか、ぐっと身近に感じるわけですから。

そのような人の参画も、このキャリアフェスティバルの中に少しでも組み込まれれば、また随分見方が変わってくるかもしれない。

そうすると、今言ったような繋がりみたいなものが出来てくると思います。

○委員

キャリアフェスティバルは、1日で終わりますけど、そこが始まりになるような、これがきっかけで興味を持ったところと、インターンシップだとか、OB訪問みたいなものだとか、そういったものが、一から学生がやりたいというとなかなか難しいものがあるかもしれないので、それがしやすい環境を作るといったことは、できそうですかね。

キャリアフェスティバルが、きっかけになるような始まりになるような、或いは、地元の企業が多いので、これを体験してから、例えば、スーパーに行くとやはり見る目が変わると思います。

そういった点で言えば、やはりキャリアフェスティバルは、中学生に向けてやっていますけれど、やはり他の方にも見てもらいたいというのがあります。巻き込むなら、その巻き込むってところが、これからの課題だと思います。

○市長

キャリアフェスティバルには、経営者も参加しておられるところもありますが、従業員だけで参加しているところもあって、企業にとってすごくプラスになっていると思っています。あれだけ自信を持って、また、それだけ蓄積したいろいろな知識を出していくということは、会社にとっても非常にプラスになることではないかなと思っています。

キャリアフェスティバルに参加いただいている企業は、しっかり糸魚川で残っていく企業じゃないかなと感じました。非常に企業としても、良い場所になっているのではないかなと。それをもっといろいろな面で、広げていければいいと思います。

○教育長

一つ情報提供してもよろしいですか。

これは、糸魚川企業ガイドブックという本です。

これは糸魚川の雇用促進協議会、事務局は商工会議所にあります。その企業の方々が地元の子供たちのために、こういったガイドブックを作っているそうです。今までは高校卒業生ぐらいから、短大、大学生あたりをターゲットにこの本が編集されていたそうです。

ところが、これから先のことを考えて、中学生向けに内容を随分変えたそうです。これを見ると、ここにそれぞれの働いている人たちの紹介が少し掲載してありますが、出身高校名

まで出ていたり、今どんな生きがいを持って頑張っているかとか、これからどんなふうにして、何を目標にして、地元で頑張っていきたいとかという抱負が全部出ています。

ですから、企業の方々もこのキャリアフェスを通してかどうかわかりませんが、地元の、特に中学生あたりに視点を向けながら盛り上げようというような一つの私は現れじゃないかなと思って、非常に嬉しく思っております。

このように少しずつ変えてきている。地元の企業の人たちの視点、見方が変わってきているということも私たちは感じながら、これからの戦略を練っていく必要があるだろうと思っています。

情報提供でした。

#### ○委員

先ほどキャリアフェスティバルについて、私としての今後の要望を2点申し上げました。例えば、思い切って言うと、キャリアフェスティバルなので、フェスティバル色を入れたらどうなのかなっていうことも思いました。小学生も中学生も高校生も大人も一緒に来て、体験をしたり、企業の方のお話を聞いたりするということができる面白いかと思います。ただ、そうすると会場をどうするのか、いつやるのかという問題にもなりますけれど、そういうのもいいのではないかなと思いました。

ああいう熱い人たちが糸魚川にいるということ、小学生も中学生も高校生も幼稚園の子も大人も知るということは、いいことじゃないかなと思います。

全員が糸魚川に帰ってくるということは無いので、何らかの形で糸魚川に貢献できる子であればいいと思うのです。糸魚川を愛してもらって誇りを持ってもらって、我が糸魚川と言える子どもを育てるのが糸魚川市の教育なので、そういう場であればいいのかなと思いました。

#### ○教育長

会場が問題なのです。

昨年と今年もやった時に、既にいっぱいという状況で、コロナウイルスの関係があって、三密防止ということになってくると、やはりオープニングやエンディングで集まったときも密なので、その辺の課題解決をどうしていくか。更に第3回を開催したときに参加事業所が増えた場合に、どうなのかという課題もクリアしなければならない。物理的な条件も大きいので、その辺について事務局の考えはありますか。

#### ○事務局

4中学校の校長先生ともお話をさせていただいている中で、会場のお話も少ししています。そこで糸中の校長先生からも糸魚川中学校と総合体育館が近いので、そこを一体的にというアイデアもいただいたりしていますので、そういった所も含めて会場設定を考えていきたいと思っています。

#### ○市長

多少離れるかもしれませんが、そういった一体的にできるものがあれば、そういったところを活かしてやれば良いと思います。

やはり人が歩いてなければ賑わいでもないですし、触れ合うこともないので、総合体育館だけに人が行って盛り上がっているだけではなくて、人が動いているのが良いのかもしれない。いろいろな工夫をして進めれば良いと思います。委員が言われましたように、高校生が参加して部活の紹介などもあっても面白いのかなと思います。

#### ○委員

私もフェスタだからフェスティバル色があってもいいのかなと思っていたのですが、会場とか天候の関係とかで難しいとは思いますが、もし行えるとしたら、例えば、中学生は中学生で1日の形として、また別な形で例えば駅前とかで、それこそ子供が体験できたり親子で体験できたりする。

そういうのは、キャリアフェスティバルというのかもありますけれども、今でもありますよね。あるのですが、もうちょっと大々的に市全体に呼びかけてやるようなイベント的なものもやると、また別な形で子供たちに地域の良さとか大人の体験とかの話を聞いたりすることもできるのかなと思います。

各学校では、それぞれ地元のOBを招いたり先輩を招いたり、地元の企業の人の話を聞いたりやっていますよね。それぞれが小中学校でもいろいろなことをやっているの、そこと繋がる形というか、みんなで子供たちに夢を語れるような人が増えてくればいいなど。連携して繋がっていければいいと思うので、確かにたくさん集まってイベントすることもいいのですが限界はあるので、また別な形で、少し自然体で関わられるようなことを考えてみていいのではないかなと思います。

#### ○市長

コロナ禍であったからかもしれませんが、市内の中学生が一堂に集まるというのがいいですね。いい交流になりますよね。

今、少し話をしただけでもこれだけの課題があるということは、伸びしろがもっともっとあるぞということだと思っています。課題については、全て一気にということではなくても、一つずつ取り込んで、いいものに持っていくということにしていけばいいのではないのでしょうか。

#### ○教育長

原点に戻りますが、キャリア教育でいろいろな成果が出ているという中で、全国学力学習状況調査の質問紙で、自己肯定感とか夢を描くとかという部分で、いろいろなことが絡まって、そのような評価が出ていると思います。その評価の内容について、もっとアピールしてもいいのではないかなと私は思います。

全国の平均よりも先ほど紹介のあった項目については、ずば抜けて糸魚川市が高いわけです。

それはやはり地域に返して、子供たちもすごいなということを感じることによって自己肯定感を高めるというか、それがやはり自信となって学習に向かう気持ちが変わっていくという部分に波及して欲しいわけです。

今はその方向で進んでいると思いますが、キャリアフェスティバルの発信ばかりではなくて、キャリア教育に絡めた形での評価をもっともっとオープンにしながら発信していくということが、これから更に求められるのではないかと思います。

学力がどうだとか何点だとかという部分もちろん大事ではありますが、もっとも自分自身、子供たちの気持ちに戻ったときに、その辺のジワッとした心の豊かさみたいなもの、自分らしい良さをしっかり自分で感じる子供たち、そのようなことで少しずつ自信を持ちながら向かっていくと思うので、そのあたりの情報発信を積極的にこれからも進めていきたいなと思いますが、事務局いかがでしょうか。

#### ○事務局

教育長がおっしゃられるとおり、我々が目指すのは本当に学びというか、生涯にわたって学んでいく上での糧になる土台づくりを学校教育が担っていると考えています。

ですので、一般的に成績の数値には表れますが、それに左右されることなく、やはり生きがい感を持って学ぶ、学びの充実感を得るところを大切に、教育を行っていきたいと思っていますし、PRということも含めて糸魚川の子供たちはここが良いですということは、積極的にアピールしていきたいと思います。

○市長

アンケートの子供たちの言葉に書いてあるものは、これは成果であると思います。

すぐに数字のバロメーターばかりを突き詰められる我々ですが、そうではなくて我々が積み重ねてきた一つの成果の表れではないかなと捉えていいのではないかと思います。

教育長が言われるように、アピールすることによって更にステップアップできると思いますし、周りもそう思ってくれないと、関係者だけで思っていたのでは駄目だと思いますので、もう少しフィードバックしながらやっていかないといけないと思います。

○委員

ちょっと別案ですが、子供たちがキャリフェスで集まってもらうことも必要だし、子供をもっと地域でいろいろな体験をさせる。また、この間も公民館活動の話をしているときに、やはり中学生高校生が地元の地域で何かできることとかお手伝いできること、或いは興味や関心のある子もいると思います。各公民館を開放して子供たちを遊ばせたいとなったときに、こういう時代なのでその管理の問題をどうするかと言ったときに、高校生とか大学生とか休み中に活用できる子たちをそこに呼びかけて活動させることはできるのではないかと思います。市教委でも長期学習の機会のときにボランティアで声を掛けていましたよね。

だから、例えば小学校高学年でもお手伝いができることもあると思いますし、地域でこんな活動をするので、中学生や高校生にちょっとお手伝いしてもらえませんかと呼び掛けるといのも今もやっていますが、そういったことが自然体で広がっていけばいいなと思っています。

中学生や高校生でも自分たちが地域で活動できるとか貢献できるとか、関心のある子や興味のある子がいますよね、面倒見が良い子とか。そういった子供たちを公民館とか地域の行事とか、市全体の行事とか、ボランティアとか、一緒に参加してやりませんかとか、そういった活動を増やしていくことも、ある面で、子供たちの体験、いろんな経験できる場所になると思うので、そういったことも増やしていけばいいなと思います。公民館の話のときにも思ったし、地域のお祭り、イベント、行事もいっぱいあるので、どんどん参加できる子は参加していければ、自分自身として自分がこうできることが増えていくのかなと思いました。

○市長

キャリア教育というのは、単なる仕事を見つけるための教育では無くて、自分を磨く、また、地域を磨くという地域振興を皆さんと一緒になってやっていけるというのが教育だと思います。

まだまだ議論は尽きないのですが、時間も限られていますので、この辺で閉じさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

○委員全員

はい。

○市長

それでは1番目を閉じさせていただきます。

続きまして、2番目の「その他」でございますが、委員の皆さまから何かございますか。

○委員全員

なし

○市長

無いようなので、2番目を終了いたします。

以上で議事を終結します。これで全ての議事が終了いたしましたので、議長の任を解かせていただきます。ありがとうございました。

○事務局

市長、ありがとうございました。

## 5 その他

○事務局

それでは、次第の5のその他ということで全体を通して何かございますか。

○委員

今後の会議のテーマとして、働き方についてテーマの1つとして検討していただけないかなと思っています。

次回でなくてもいいのですが、糸魚川市の子供たちの教育に関わる人たちの働き方改革ということについて、テーマの1つとして考えていただければなと思っています。

○事務局

この件につきまして事務局からご意見はございますか。

○事務局

テーマの1つとして働き方課改革についてご提案いただきましたけれども、学校現場はコロナウイルス対応も含めて、教職員がいろいろな業務で大変忙しい中で、またデリケートな対応もさせていただいているところでもありますので、そういったことも含めながら、今、一般に言われております働き方改革についても、重要な子供との向き合う時間の確保という意味から大事な課題であると捉えておりますので、総合教育課会議でのテーマの1つとして取り上げられるかを検討させていただきたいと思います。

○事務局

学校だけではなくて、保育園・幼稚園も含めて、そのあり方というところで案件として検討したいと思います。

○市長

そうなってくると、今までの概念とガラッと変わってくところも出てくると思うので、担当だけでは解決できない部分もあるかと思うので、その辺がどうあるべきか、また行政がどういう立ち位置になるのか、そしてまた、地域住民の皆さんからも協力してもらわなくてはいけない、保護者も協力してもらわなくてはいけないところも出てくるので、早めにそういったことを出しながら連携を取っていくことが必要だと思うので、我々も進めてきている一貫教育というのは、そういうことだろうと思うので、なるべく多くの人を巻き込んでいけるような形に持っていきたいなと思うのでよろしくお願いします。

○事務局

次回のテーマになるかどうかまた検討させていただきたいと思います。

皆さまからその他にございますか。

○委員全員

なし

## 6 閉会

○事務局

無いようであれば、事務局から今後の日程について報告いたします。

今年度の総合教育会議については、今回で終了とさせていただきます。

来年度の会議につきましては、日程等が決まり次第、早めにご連絡させていただきますのでよろしくお願ひいたします。

以上をもちまして、令和3年度糸魚川市総合教育会議を閉会させていただきます。

大変ありがとうございました。

(閉会 11:30)